

朝日に染まったウルル。
小さな島国から来たので、どこか新鮮な岩山の景色。



外から見たトンガ

青年海外協力隊 2018 年度 1 次隊 派遣国：トンガ王国 伊藤有未（三郷市）

協力隊の任国外旅行制度を利用し、下記 2 つの目的で、約 1 週間オーストラリア(以下、AUS)を訪れました。単なる観光旅行でなく、一隊員の目線で、トンガや隊員としてのあり方を再認識。価値ある時間を過ごすことが出来ました。

①エアーズロックの登頂。時間の都合上、完頂とはなりませんでした。十分な満足感を得られました。壮大な大地に佇む岩山、小さな島国から来ただけ

に、その偉大さがより一層新鮮に感じました。現地では、日本人向けツアーを手配しました。約 1 年間のトンガ生活に慣れたせい、過度に商業的な環境、団体行動や時間厳守にどこか息苦しさを感じた私。ポジティブに考えれば、自分がトンガに染まったと言えますが、帰



地球の偉大さを再認識することになりました。

国後に待ち受ける満員電車や定刻厳守の日本社会に順応できるか心配です。

②休職中の会社のオーストラリア支店を訪問。これまでの在任期間で、トンガの人たちが計画的に動くことが不得意であると十分に理解していたつもりでも、支店で計画的に仕事や話し合いが淡々と進んでいる様子を見て、「トンガの人たちにこの働く姿勢を見習ってほしい」と羨ましくなりました。改めて日本や AUS とトンガにおける仕事の生産性の差を痛感し、私はトンガで一体何をしているのか、いまだ活動の成果を残せていない非力な自分を悔しく思いました。しかし、ここで弱音を吐いても仕方ありません。自分があと 10 ヶ月でどこまでいけるか、トンガの人たちと頑張っていこうと、活動に対しても気が引き締まる旅行となりました。

最後に、国外に出て、客観的にトンガを見たことで、トンガの良さを知ることができました。目があったら微笑んでくれ、困ったらすぐに手を差し伸べてくれる、そんな優しい人たちが住む国、トンガ。任地に戻れば、「ユミ！」と笑顔で迎えてくれる配属先の人たちやご近所さん。「ただいま」が言える環境に赴任しているのだと、人々の温かさに気づかされた旅行となりました。



約 1 年ぶりに見る近代的な建物と電車。ビジネススーツを見かけるのも久しぶりでした。人ごみをかき分けるのもどこか違和感。